

第8章

補正と過去のデータ

普通のソフトウェア見積り勉強会 #13

2007.3.2

進行役:あまのりょー

第7章 数えて、計算して、判断する



この辺のこと、らしい

補正 (換算)

- 数えたものの.to_見積り
- ex)
 - LOC.to_工数
 - ユーザストーリー.to_カレンダー時間
 - 要求.to_テストケース数

適用範囲

- プロジェクトの規模：S/M/L
- 開発ステージ：初期～中期 or 中期～後期
- 反復型/シーケンシャル：両方
- 正確性：使うデータに依る → あとで

データの種類

業界標準

確度：低～中

組織

確度：中～高

プロジェクト

確度：高

業界標準のデータ

8.5だけど先に

8.6

まとめ

最初に結論

もし過去のデータを
持っていないのなら、
出来るだけ早く
収集を始めよう

ASAP, ASAP!

暫定

過去のデータが無い場合は、
業界の平均データを使う以外に
ほとんど選択の余地がない。
業界平均データを使用するのも
適切ではあるが、
それ以上のものではない。

できるだけ

プロジェクトのデータか

組織の過去のデータ

を使おう

8.1

組織の過去のデータ

Q: 利点は?

A: 正確性デス

Why is it accurate?

- 1) 組織の影響を想定できる
- 2) 主観や根拠の無い楽観主義を回避できる
- 3) 見積りの政治力学が減る

組織の影響を想定できる

- 中～大規模になると**組織の特性**の影響の割合が大きくなる

*第5章の因子についての組織のレベル

*組織が取り組む要求の安定度 → ?

*組織の人事方針

*マルチプロジェクト

*人員計画

*設計・構築・品質保証・テスト体制

*従うべき規制

*離職率

主観や根拠のない 楽観主義を回避できる

- 幻想ファクターの排除
- 「生産性は組織の属性であり、プロジェクトで簡単に変更できない」
- 「昨日の天気」というコンセプト
→プロジェクトのデータについて使う事が多いような

見積りの政治力学が減る

- 例えば、プログラマの能力の期待値に関する駆け引き
- 「うちのチームは平均以下かどうか」という前提に関する議論
- こういったものを回避できる

こういうの、経験ありますか？

余談

もし、過去の
“見積り”データを
使っちゃったら...orz

Single Point だとやっちゃいそうで怖い

8.2

収集するデータ

集め始める

- 規模
 - ▶ LOC
 - ▶ FP、ストーリー、Webページ、DB table
- 工数
 - ▶ 人月
- 時間
 - ▶ カレンダー一月
- 欠陥
 - ▶ 重要度によって分類されたもの

LOCの測定

- 測定方法に定義が必要
 - ▶ なにをどう数えるのか
 - ▶ 大した問題じゃない
- 重要なのは
 - ▶ 一貫していること
 - ▶ 見積りの中に意識的に投影されること

工数の測定

- LOCと同じように
 - ▶ 収集するデータを明確に定義する
 - ▶ 見積もる対象をはっきりと理解する
- たとえば
 - ▶ データ中に、サービス残業が入っている場合

カレンダー時間の測定

- 驚くほど困難だ
 - ▶ プロジェクトはいつ始まったか
 - ▶ プロジェクトはいつ終わったか
- **マイルストーン**を設定していると役立つ
- 収集するデータを明確に(ry

どんなマイルストーンを設定してます？

欠陥の測定

- 何を欠陥として数えるかによって、数字が2～3倍も変わってくる

BTSどう使ってます？

その他

- プロジェクトが終わったら、出来るだけ早くデータを収集しよう
- プロジェクトの進行中にスナップショットを収集するとなお良し

8.3

補正の方法

データ収集のゴール

- 見積りに使用できる
モデルを作成すること
- リニアなモデルだけではない
 - ▶ 「規模の不経済」の問題

8.4

プロジェクトのデータ

**組織の過去のデータ
よりもさらに確度が
高くなる**

**反復的であればあるほど、
スイッチを早く
切り替えられる**

8.6

まとめ

もいちど

もし過去のデータを
持っていないのなら、
出来るだけ早く
収集を始めよう

ASAP, ASAP!